

## 八丈島の言語生活：世代差・場面差など

著者	沢木 幹栄
雑誌名	創立30周年記念研究発表資料
ページ	8-8
発行年	1978-12
URL	<a href="http://doi.org/10.15084/00002982">http://doi.org/10.15084/00002982</a>

### 3. 八丈島の言語生活—世代差・場面差など—

言語変化研究部 第一研究室 沢 木 幹 栄

当研究室では、現在の八丈島（東京都八丈町）において標準語と方言が場面（対者）によってどのように使い分けられているか、その実態を世代別、あるいは地区別にみることを目的として実験的小調査を行った。内容は、三根・大賀郷・檉立・中之郷・末吉の各地区で、祖父・父・息子の3世代が健在な家族、各地区あたり5家族15人（八丈島全体で計75人）を話者を選び、音韻・語彙および文法を中心とする計60の項目のそれぞれについて「祖父」「父」「息子」「孫」（のうちのいずれか2者）、および「島出身の先生」「東京（都区内）から来た初対面の人」と話すときに使用する語形・表現についてたずねるものであった。項目の具体的な例をあげると、音韻では「俵」（トーラというか、ターラというか）、語彙では「カマキリ」（ケンペーメ、シンキチメ、カセギメ）、文法（文表現）では「きのうは役場に行かなかった」（キニーワヤクビャーイキンジャララ）などがある。

なお、調査は53年2月に実施した。（調査者：飯豊、佐藤、真田、沢木、白沢）